

令和6年度 第3回伊勢市環境審議会 記録概要

1. 日 時 令和6年9月19日（木） 18:30～20:00
2. 場 所 伊勢市役所 本庁舎東館 5-3 会議室
3. 委 員
河井 英利 （公共の団体：伊勢農業協同組合）
中西 修 （公共の団体：伊勢市総連合自治会）
竜田 和代 （公共の団体：伊勢市女性団体連絡協議会）
高橋 克彦 （公共の団体：伊勢市環境会議）
勝又 ひとみ （公共の団体：伊勢小俣町商工会）
中村 佳子 （公共の団体：伊勢市観光協会）
松永 彦次 （神宮司廳）
山村 直紀 （学識者：三重大学）
平山 大輔 （学識者：三重大学）
中松 豊 （学識者：皇學館大学）
奥田 哲也 （三重県南勢志摩地域活性化局）
藤原 寛仁 （三重交通株式会社）
上野 早苗 （公募）
岡本 忠佳 （公募）
田岡 光生 （公募）

【欠席】

- 福村 伝史 （公共の団体：伊勢商工会議所）
杉田 英男 （公共の団体：伊勢湾漁業協同組合）
岡野 直高 （中部電力パワーグリッド株式会社）

事務局 大桑 和秀 （環境生活部 部長）
山本 佳典 （環境課 課長）
角谷 晃 （環境課 主幹）
井村 明弘 （環境課 主幹）
村田 雄紀 （環境課温暖化防止推進係）
林 歩 （ごみ減量課 課長）
エヌエス環境株式会社 2名

4. 概要

(1) はじめに

(2) 議事

① 第3期伊勢市環境基本計画改定に係る骨子案について

○事務局による説明

- ・ 資料1に基づき、第3期伊勢市環境基本計画（改定案）について説明

○質問・意見等

- ・ 内容が多岐にわたっており、いっぺんにこの時間の中で審議するのは、なかなか難しいと思う。先ほど説明があったように、ここで思いつかなくても、自宅に帰ってからでも、別の所でも、思いついた場合は、別紙をメールやファックスで送っていただければと思う。特に、基本計画の中で、伊勢市の取組、それから、新たに設けた指標、この辺りについてご意見を頂ければと思う。
- ・ 資料1の17ページのコラム「コベネフィット」と「ウェルビーイング」、59ページのコラム「デコ活」が空欄になっているがなぜか。言葉を市民に分かりやすく説明するために検討しているところなのか。

⇒コラムについては、計画の本筋ではないが、参考資料の読み物として追加しており、現在、記載内容を検討中である。資料1にあげたもの以外に、「ネイチャーポジティブ」「自然共生サイト」等、新たな動きで市民の方に分かりにくい言葉や、環境会議で「勢田川のいきもの調査」を継続的にやっているので、どのような生き物が捕れるか等も、コラムとして掲載したいと思っている。これから充実していきたい。【事務局】

- ・ 資料1の27ページの施策の方向性（1）の②の主な取組に、「家庭における使用済みペットボトルなどの再使用の促進」とあるが、使用済みのペットボトルの再使用を進めていきたいというのは、読んだ方の取り方にもよるが、お茶や果汁は口が小さくて洗浄しにくく、衛生面で問題があるのではないかなと思う。

⇒この記載の趣旨は、ペットボトルをペットボトルとして使い続けるのではなく、他の用途として、例えば、工作などで他のものに作り変えて再使用する、ということであげさせていただいた。ペットボトルに限らず、お菓子の箱など、いろいろな使い道をして、ゴミにするのではなく活用しようという意味であげている。【事務局】

⇒飲み物を入れて持ち運ぶというような誤解を招かないように、表現を工夫

していただきたい。

- 資料1の32ページの「水環境の保全」について。いま、マイクロプラスチックが水環境にかなり悪影響を及ぼしているということを見聞きしているが、海洋汚染の対策のことをこの中に入れるのは難しいか。

⇒確かに、海洋プラスチックやマイクロプラスチックは課題になっている。
そのようなところが入っていないとのことであれば、どこに入れるかは考えさせていただくとして、項目は入れさせていただきたい。【事務局】

- 先ほどのペットボトルの再使用は、わざわざ記載する必要があるのか。使用済みのものについて、再利用の促進だけにした方が分かりやすいのではないかと思う。

⇒表記の仕方は考えさせていただきたい。【事務局】

- 何点か考え方をお聞きしたい。例えば、資料1の23ページで、ポンプ場等の長寿命化・更新や、洪水、災害、施設などがあり、中身的には良いのだが、この辺りが「治水・利水対策」の所で良いのか、もしくは「災害時」の方が良いのか、しっかりと考えていただいた方が良い。いま、気候変動で、マンホールが上がるとか、災害とか、色々なことを考えたときには、災害は避難施設にこだわるのではなく、施策③に入れるのか、施策④に入れるのかを検討していただきたい。

次は、資料1の33ページの②の「里地里山等の活用と社会課題の解決」で説明いただいた「伊勢市鳥獣被害防止計画」に基づく獣害に強い集落づくりの体制整備支援について、言葉になじみがないので、もう少し分かりやすく書くと良い。「獣害に強い集落づくり」のイメージがわからないので、説明や補足があると良い。

次は、資料1の37ページの施策の方向性(1)の施策①の「空家等に関する対策の推進」は、今後の高齢化社会で、もう少し突っ込んで書いた方が良い。空家は、負の資産として見るよりは、進んでいるところでは、資産として色々な面で活用している。その辺りを突っ込んで書いたら、よりまちの活性化にもつながると感じた。

⇒資料1の23ページの「治水・利水対策」と「災害時の避難施設」の整理について。気候変動で課題になるのは、熱中症や、農作物への被害、集中的な豪雨がよく言われている。23ページの施策③と施策④は、大雨が来た時の災害対策を記載している。③と④の書き方については整理する。

資料1の33ページの「伊勢市鳥獣被害防止計画」に基づく獣害に強い集落づくりの体制整備支援については、具体的なことが書き込んでいな

いたため分かりにくかったと思う。具体的には、防護柵や檻、音による野生鳥獣の追い払い等の取組をしており、そういった取組を支援するというところで記載している。もう少し具体的な表現を心がけたい。

資料1の37ページについても同様に、「空家等に関する対策の推進」が、具体的にどうするのが見えてこないところがある。具体的には、倒壊しそうな空家の除却を補助事業で進めていたり、資産として活用するところでは、「空家バンク制度」を設け、空家を活用して移住してくる方と空家の所有者の方をマッチングさせる取組をしたり、空家を活用して住もうとする方にリフォームするための補助金を出したり、具体的な施策を行っているので、もう少し具体的な表記をしたいと思う。【事務局】

- 空家があると、災害などで細い道がふさがれる、獣が住み着くなどがある。
そういったところは、しっかり管理するということと、空家を不動産屋の斡旋的な発想ではない市の対策をお願いしたい。まちづくりに活かすとか、補助金を利用するなど、地域の活性化に空家をうまく誘導していただきたい。
- 資料1の23ページの「熱中症予防」で「指定暑熱避難施設」とあるが、この後ろに括弧して「クーリングシェルター」と記載した方が、ご存じの方がいるので良いと思う。

資料1の24ページの事業者の役割について。最近、WBGT（暑さ指数）がよく使われている。31以上は外出できない・運動は原則中止ということ。学校でも計測機械を使っていると思う。事業者の役割のどこかに、WBGTのことを書いていただけると良い。最近、どこでも使っていると思う。

⇒追記させていただきたい。【事務局】

- 資料1の37ページの施策③の「美しく潤いのある空間づくり」のところで、ポイ捨てにかかることが書かれているが、空き缶・たばこの吸い殻のほか、ペットボトルは該当しないのか。

⇒空き缶やたばこの吸い殻は、例として挙げている。基本的には、ポイ捨て防止なので、ごみ全般が対象になる。【事務局】

⇒「等」と入れると良い。

- 資料1の38ページの「良好な景観の形成」は大事な発想で良い。例えば、景観形成の重点地域の内宮や二見、あるいは河崎などをイメージしているかと思う。「電線の地中化」も非常に大事な視点であるが、まんべんなく何処かではなく、おそらく景観形成の計画に基づいた重点地区があるかと思うので、その辺りの考え方があれば教えていただきたい。

⇒計画はあったと思うが、後日回答したい。【事務局】

⇒相当な費用が掛かるため、費用対効果を見極めて実施して欲しい。

- 資料1の37ページの施策④の「バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進」について、公共空間・公共施設については具体化されているが、市内の歩道で、シルバーカーや観光客のキャリー等が、あまりにもガタガタすぎて歩道を通行できず、車道しか通れないという所が結構あると思う。観光のまち伊勢市ですし、これからは高齢化社会ですし、ユニバーサルデザインとして、歩道も具体的に言葉を入れて整理すると良い。シルバーカーや高齢者の電動車は、段差でこけそうになるから、車道しか通れないということがある。特に、交通量の多い所を重点的に見直していただけたら良いと思う。

⇒都市整備や観光などの部門の計画に記載があると思うので、確認させていただく。【事務局】

- この計画書に画像は入るか。ごみや獣害の様子、自然災害が酷いときの画像を掲載すると実感がわくと思う。また、勢田川七夕清掃で川がきれいになっている様子を掲載して、続けている結果が何年後にこんなふうになっているのを見せていただけると、市民としても市の施策が目に見えて良いと思う。

⇒今後、計画書の体裁を整えていく中で写真等を追加する。勢田川のかつての姿が今のように変わってきたとか、計画書にはきれいな写真を載せてしまいがちだが、酷い状況の写真があっても良いかと思う。勢田川の水質が変わってきたことは、コラムで掲載したいと考えている。【事務局】

- 先ほどの資料1の27ページのリユースの所で、使用済みペットボトルの再利用促進を前面に謳ってあるが、一方で、マイクロプラスチックのような問題が出てきている。マイクロプラスチックは、国際的にもすごく問題になっている。その中で、原因となるペットボトルの再利用を、市として謳うことが良いのかどうかを考えていかなければならない。非常にシビアな問題であるため、記載の仕方や言い方を考えないといけないと思う。

⇒たくさんのご意見をいただいたので、どのような表現にするのが良いか、また、項目自体を消すのが良いのかを考え、次回お示ししたい。【事務局】

- 資料1の27ページは「3Rの推進」として、①発生抑制、②再使用、③再生利

用に分かれているが、皆関連している。①で言う「ごみを出さない」ようにしようとすると、生ごみ処理機につながるし、ペットボトルも施策②では再使用と書いてあるが、施策③になると再生利用になる。3Rに分けているということで、表現の仕方を少しずつ変えていく必要がある。一つずつを細かく分けると、同じところに到達する気がする。

⇒環境課とごみ減量課の視点はあるが、環境基本計画は、関連計画と整合が取れている必要がある。ごみの方の計画を再確認して整理したいと思う。

【事務局】

⇒先ほどの、再使用の所のペットボトルは、再使用できる物の例として挙げられている。会長からも話があったように、間違いやすい表現になると思うので、再使用できる物がペットボトルの一例だけであるため、誤解を招かないように表現を変えて、使える物を再使用していただくような表記に調整したい。【事務局】

- ペットボトルの再使用は、メーカーが回収して、洗浄・消毒をしてそのままの形で再使用することをイメージしているのではないか。

⇒ペットボトルの水平リサイクルは、使っていたペットボトルを洗浄して新たに違うペットボトルの商品にするのではなく、ペットボトルを回収すると、いったん洗浄・消毒・分解してフレークにし、それを材料にしてペットボトルに変えるということ。瓶などはそのまま使用することもあるが、ペットボトルの水平リサイクルは、いったん粉状に分解して、そこからペットボトルに変えるというやり方になる。

ペットボトルの再使用の表現は、再使用する物の表現を変えるような形で修正したい。【事務局】

- 先ほども申し上げたように「使用済み容器」で良いのではないか。紙や木、プラスチックでも、使えるものは使うし、使えないものは使えないと明確にした方が良い。
- 3RのRがなぜ半角なのか。49ページのOFFが半角になっている。16ページのSDGsの出典は書かなくて良いか。3ページの出典が片括弧になっている。両括弧の方が良い気がする。

⇒修正する。【事務局】

- 他にないようでしたら、たくさんのご意見を頂いたので、そこを修正して重要な点はまた審議することになると思う。今度の会議までには、コラムなど

も入るので見ていただければと思う。

(3) その他

○事務局より今後のスケジュールについて説明